

5月市議会で役員を改選

5月15~16日の市議会本会議で、今年度の議長をはじめとする役員改選が行なわれました。正副議長と監査委員（議会三役）は、全議員の投票による選挙で、議長に水谷進氏、副議長に藪田啓介氏、監査委員には明石孝利氏が選ばれました。

今回はそれぞれに2氏が立候補し、選挙の結果は以下のとおりです。どれも僅差での勝敗となりました。（敬称略）

【議長】	水谷 進	宮本正一
【副議長】	藪田啓介	中西大輔
【監査委員】	明石孝利	森 雅之

日本共産党市議団の役職

石田 秀三 議会運営委員・総務委員会委員

森川ヤス工 地域福祉委員会委員・国保運営協議会委員

橋詰 圭一 文教環境委員会副委員長・鈴鹿亀山広域連合議会議員



毎年、市長に予算要求を行なっています。

本年度は今期4年間の最後の年で、来年2019年4月には改選の選挙が行われます。共産党市議団は、前回の選挙での公約・政策の実現・市民のねがい実現めざして、毎議会がんばってきましたが、最後の1年も引き続き奮闘する決意です。引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

一般質問を「片道方式」に改善

市議会本会議で行われる「一般質問」のやり方が、6月議会から改善されます。一般質問とは、各議員が市長に対して市政全般について行なう質問で、定例議会ごとに行なわれ、各議員の「持ち時間」は45分（会派内での調整で60分まで可能）です。これまでのルールは、この「持ち時間」の中で議員の質問と市側の答弁を「一問一答」で行なっていました。

質問する議員の「持ち時間」を保障することに

この方式の問題点は、市側の答弁が長くなると、その分だけ議員の質問する時間がなくなり、突っ込んだ質問をしようとしても「時間切れ」で終わる場合があったことです。今回の改善は、持ち時間45分のうち半分の23分は「議員の質問時間」として保障する、もし長々と説明する答弁があっても、その時間は議員の持ち時間には食いつまみない、ということです。

この「片道方式」の試行を12月、3月と行なってみて今回、本格実施となったものです。議場内には発言残時間を示す時計が2つ設置され、1つは全体時間、もう1つは議員の持ち時間を示します。私たち議員は、自分の持ち時間の時計を見ながら、23分を自分でコントロールしながら質問を行なえます。これまで私も問題点を追及する場面で、長い答弁をやられて「時間切れ」で逃げられたことが何度もありましたが、このルール変更でそんな心配は無くなります。また執行部の方も、全体時間を守るためには簡潔明瞭な答弁、質問に噛み合った答弁に心がけることが求められます。

今年度から「通年議会」になります

議会は定例会ごとに「会期」を決めて行われてきました。その会期の間が「開会」、会期以外の期間は「閉会」でした。それがこの5月からは「通年議会」制度が導入されて、5月から来年4月までを「会期」とする、つまり1年中ずっと議会が「開会」されている、ということになります。6月議会が終わっても「閉会」ではなく「休会」です。実際の運用はこれまでのやり方と変わりませんが、必要な時にはいつでも、市長の招集行為なしに会議を開けることになります。今回の改革で「土俵」が整備されましたが、その新しい土俵の上でどんな勝負が行なうのかは、私たち議員の責任です。

中学校の給食、トイレを見学して

4月の新学期早々に、党議員団で神戸中学校におじゃまして、給食の様子やトイレの実態を見せてもらいました。神戸中は新築移転して8年の新しい校舎で、教室から体育館まで全体が新しくきれいです。特にトイレは、乾式（床を水洗いしない）、便器もウォッシュレット付きで清潔です。廊下は広く、2階との吹き抜けの所は開放感があります。改築が出来ていない古い学校のトイレと比べると、雲泥の差があります。せめて毎日使うトイレだけでも、市内の格差を解消すべきです。



体育館の「みんなのトイレ」

校舎で、教室から体育館まで全体が新しくきれいです。特にトイレは、乾式（床を水洗いしない）、便器もウォッシュレット付きで清潔です。廊下は広く、2階との吹き抜けの所は開放感があります。改築が出来ていない古い学校のトイレと比べると、雲泥の差があります。せめて毎日使うトイレだけでも、市内の格差を解消すべきです。

体育館の「みんなのトイレ」

センター方式でも工夫を重ねて、温かい給食

4限目が終わって、給食の配膳開始。係の生徒たちがテキパキと盛り付けて行きます。惣菜も温かいもの、冷たいものの温度管理が工夫されていて、「自校方式」に近づける努力がされています。惜しいと思ったのは、改



クラスごとに給食の配膳

築工事の時期が中 給食の試食もさせていただきました
学校給食実施の決定前だったので、校舎が給食を前提とした造りになっていなかったこと。エレベーターなどの設備が不十分なままで、ちょっと先行投資する発想があれば便利になったのに、と思いました。

山歩きで身体と心の健康づくり

65才になり、足腰が弱らないように暇を見つけて山歩きに出かけています。年金者組合の「山歩会」にも参加しています。1月は伊勢の朝熊山、2月は熊野古道の馬越峠、3月野登山、4月猫岳、5月入道岳、釈迦ヶ岳と県内の山に登ってきました。夏には遠出して信州の山に行こうと思います。



釈迦ヶ岳(1092m)の頂上で

ずいそう



朝鮮半島の激動と日本

韓国と北朝鮮の対立、アメリカと北朝鮮の対立という図式が、今年2月の平昌冬季オリンピックのあたりから急展開、南北の対話、米朝の対話による問題の平和的解決という道が、超短期間に開けてきた。韓国の文大統領と北朝鮮の金正恩委員長が、70年間も南北を隔てていた境界線を楽々と越えて、親しく握手する映像が世界を駆け巡った。トランプ大統領も、軍事的対立をおおる発言の一方で、対話の道を水面下で求めて、6月に金委員長との首脳会談、そして朝鮮戦争を「終戦」にする平和協定へ進む姿勢を明らかにした。

この歴史的な激動が進む中、わが日本政府はまったく「蚊帳の外」、安倍首相は「対話のための対話は意味がない」と広言、北朝鮮にも「圧力」一辺倒を叫ぶだけで、世界に大恥をさらした。本当に情けない。

他者にも思いがいく日本人であってほしい

日本の植民地下の朝鮮で生まれ育ち、戦後の米軍統治下の韓国から日本に渡り、「在日」として様々な困難の中を生きてきた、詩人・金時鐘（キム・シジョン）氏は、日本と朝鮮について語っている。

「（日本人拉致問題について）僕は北朝鮮という特定国家による犯罪を許さない。だけど僕は、日本の人たちにとくと知ってほしいことがある。うちの国からの強制徴用90万人、強制連行されて行方知れずの犠牲者もまた、数万人います。十数人の拉致で国民感情があれほど激化したのだから、徴用・連行された90万人の家族の思いがどんなものであるかも、分かるはずです。他者にも思いがいく日本人であってほしい。」「トランプ大統領のパートナーを自任して、北を締め上げて軍事制裁が真つ当だとばかりに安倍首相は口にしていきますけれど、それは日本を守るどころか、自らも焦熱地獄に陥ることになります。対話以上のものではありません。」「植民地統治が終わってから70年来、北朝鮮と修好条約が結ばれていないのは日本だけです。北朝鮮との間でまず国交正常化の話をしよう、植民地支配を強いた日本から提言すべきです。」「重圧をかけるより、アメリカとの間の仲立ちができる日本であることをいま一度考えてみる。好き嫌いを先立てずに対話の場を作り出す責務が、お互いにあるのです。」